

平成 24 年度 おおさかストップ温暖化賞 優秀賞 受賞者 取組み事例

| | | | |
|---------------------|--|-----------|----------|
| 事業者名 | 大日本住友製薬株式会社 | | |
| 所在地 | 大阪市中央区道修町 2-6-8 | | |
| 主たる業種 | 化学工業 | | |
| 事業の概要 | 医療用医薬品、食品素材・食品添加物、動物用医薬品、診断薬等の製造および販売 | | |
| 温室効果ガスの排出抑制の状況 | 温室効果ガス総排出量 | | 削減量 |
| | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 | |
| | 42,682 トン | 39,678 トン | 3,004 トン |
| 削減率 | 7.0% | | |
| 平成 23 年度に実施した主な対策内容 | <p>1 コージェネレーションシステム更新等 研究所（吹田市）では、熱源改修工事を行い、発電効率向上が期待されるリーンバーン、ミラーサイクルガスエンジン仕様のコージェネレーションシステムに更新しました。</p> <p>2 研究棟の空調機更新等 研究所（吹田市）の建屋（実験棟）の空調システム更新時に、高効率な機器を導入しました。熱源システムとして空冷モジュールチラーを、照明設備には LED を採用しました。</p> <p>3 実験施設の使用方法 実験施設について、稼働率の最適化を図りました。また、研究所内の治験薬製造棟では、非製造期間の空調運転方法を見直し、省エネルギー化を図りました。</p> <p>4 省エネ・節電対策等 オフィス系事業所や研究所・工場では、「照明の間引き」、「空調温度管理の徹底」など各種の省エネ・節電対策を実施しました。</p> | | |
| 温室効果ガスの排出抑制効果 | 平成 23 年度に実施した主な対策内容 | | 削減量 |
| | 1 コージェネレーションシステム更新等 | | 400 トン |
| | 2 研究棟の空調機更新等 | | 572 トン |
| | 3 実験施設の使用方法 | | 1,090 トン |
| | 4 省エネ・節電対策等 | | 942 トン |
| | 合 計 | | 3,004 トン |

平成 23 年度に実施した対策内容の詳細

1 コージェネレーションシステム更新等

研究所（吹田市）では、空調熱源の一部にコージェネレーションシステムから発生する温水と蒸気を有効利用しています。熱源改修工事を行い、発電効率向上が期待されるリーンバーン、ミラーサイクルガスエンジン仕様のコージェネレーションシステムに更新しました。その結果、発電効率が 32.7%から 41.7%へ向上しました。同時に高効率なガス吸収式冷凍機および貫流ボイラーに更新しました。



コージェネレーションシステム（総合研究所、更新後）

2 研究棟の空調機更新等

研究所（吹田市）の建屋（実験棟）の空調システム更新時に、高効率な機器（熱源、空調機、モーター、照明設備、空調機自動制御システム等）を導入しました。熱源システムとして空冷モジュールチラーを、照明設備には LED を採用しました。



空冷モジュールチラー（総合研究所、更新後）

3 実験施設の使用方法

2 研究所の実験施設について、稼働率の最適化を図りました。また、研究所内の治験薬製造棟では、非製造期間の空調運転方法を見直し、省エネルギー化を図りました。

4 省エネ・節電対策等

オフィス系事業所や研究所・工場では、以下の取組みを行いました。

- ・ 照明の間引き
- ・ 空調温度管理の徹底
- ・ 冷蔵庫台数削減（研究所）
- ・ 給湯室の温水器の昼間運転の停止
- ・ 自動販売機の一部運転停止
- ・ トイレのエアタオル停止
- ・ 一部会議室の使用停止
- ・ 離席時のパソコンの蓋閉め



大阪総合センター 廊下照明の間引き